

子ども発達学科准教授 鎌倉 博

1. 研究活動

【著述・論文】			
乳幼児の子どもたちの発達にとって大事なことはなにか	2015. 8. 8	日本生活教育連盟『生活教育通信』126号 pp. 50-52	同連盟第67回夏季全国研究集会乳幼児の教育分科会参加予定者に向けた、同分科会で深めたい内容や、現代の乳幼児の保育と教育のあり方ととして聞きたい内容の概要をまとめて示した。

保育者を目指す学生向けの授業での試み	2015. 8. 8	第67回日本生活教育連盟夏季全国研究会乳幼児の教育分科会レポート	大学教員1年目で初めて担当した「保育内容環境」の授業の概要をまとめた。何をねらいとし、どんな内容でどう展開させたか、その中で学生が何を考えどう取り組んだのかを、小学校教諭・幼稚園教諭・保育所保育士が揃った研究の場で紹介した。どういう幼稚園教諭・保育所保育士に育ってほしいのかの現場の声も参考に、幼保小が連携して、さらなる幼稚園教諭・保育所保育育成を進めようと考えて、討議のたたき台とした。
国語教育を全体としていかに議論を深めるか	2015. 12. 10	児童言語研究会『国語の授業』pp. 74-79	和光小学校国語主任として、国語教育全体の授業改革を進めてきたことを通して、教科としての国語の目標をどう据えるのか、そのために国語教育全体をレイアウトすべきかを提示した。
教員・保育者を目指す現代の学生の動物に関する意識分析の試み	2016. 3. 10	名古屋芸術大学教職センター紀要第5号 pp. 227-245	教科教育生活と保育内容環境に明記されている「動物との関わり」に対して、当の学生たちは嫌悪感を持っている。その実態を明らかにし、教員・保育士養成大学としてどうその実態を改善していくべきか、その課題を考察した。
限られた紙面で溢れる教育観を伝える	2016. 4. 1	日本生活教育連盟『生活教育』809号生活ジャーナル pp. 74-75	就学前の遊び・体験を重視した幼児教育・保育を受けて、「しつけとルール」の徹底をはかる教育で子どもたちを苦しめる教育ではなく、「学びの文化」を子どもたちと楽しみながら、学校を楽しみにし、子ども同士を結び付け、安心・安定した学級をつくっていく小学校教員吉野裕之実践の意義を論述した。
幼保小大、親が繋がって豊かな乳幼小学期を保障する道を拓く	2016. 3. 20	日本生活教育連盟『生活教育通信』127号 pp. 29-33	幼稚園教諭・保育所保育士・小学校教諭・大学研究者・親・学童クラブ指導員が集った研究会にて報告された8本のレポートと討議の概要を取りまとめ、「幼保小大の連携」の意義を実践的に取りまとめた。
教員養成大学における地域生活に根ざした学びを習得していくことの今日的意義と授業実践	2016. 3. 30	名古屋芸術大学研究紀要第37巻 pp. 95-110	小学校教員養成大学の今日果たす役割として、「学校と地域の関係」を自らコーディネートできる実践力を獲得させていくことが大切だと考える。その根拠はどこにあるのか、「学校と地域の関係」をコーディネートできる教員になるために大学教育においてどのような授業体験・社会参加体験が必要であるのかを明らかにしようとした。

【その他】			
教育実践力向上を目指す教員・教員志望学生支援のための授業・学級づくり研究	2015. 11 ～2016. 2	名古屋芸術大学科研費奨励金活用研究	現代の学校現場・子どもや親の実態などを率直に語れる実践交流の場に足を運んで、現状としてのリアルな実態を把握するとともに、その実態から子どもたちが充実感をもって学習や学校生活に向かえるようにするための、個々の教師の苦悩や工夫、やりがいなどを取材する。そうして、現状の見方や実践に対する評価・課題について一緒に考え発言もしていき、現場で奮闘する教員を励ますとともに、そこでの報告・討議をまとめてこれからの授業や実習指導に役立てていけるように概要をまとめた。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目名 生活		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ固有の学ぶ意義をしっかりと文献で確かめながら、体を通して学びを深めていけるような栽培観察活動・地域探索活動・屋外遊び体験などの体験実習型授業、受講生同士の関係を深めて学びを深めていけるような討論発表型の授業に心がけた。 ・各授業の最後に書かせてきた「感想」を授業通信として編集し、次の授業で学生に配布した（それぞれ「S通信」「SS通信」「HK通信」と名付けた）。そのことで、前時の学習内容を復習できるとともに、個々の学生が考えたことをさらに交流できて学生の学びを深くしていくことができるようにした。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
小学校低学年が教科の1つとして学習する生活科の内容の意義を『学習指導要領』で確かめながら、具体的にどのような内容と学び方で授業が構成されているのか、改めて体験しながら学べるようにした。	文科省『小学校学習指導要領』を主たるテキストとし、さらに鎌倉著『きらめく小学生』（合同出版）を活用し、鎌倉が実際に小学校教員時代に使用した教具や子どもたちが表現した作品を見せながら授業展開した。	
授業科目名 生活科指導法		
◆前期（主に3年生対象） ◆後期（主に2年生対象）		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
個々の学習内容ごとに、同じ内容でも低学年理科・社会で扱っていたときとは違う点、他の教科にない学び方の特色をつかませて、どのように授業を構成し展開していけばよいのか、そのためにどのような準備とまとめ方をしていけばよいかイメージできるようにし、教育実習や採用後にすぐに生かせる実践力が身につくようにした。	鎌倉著『きらめく小学生』（合同出版）を主たるテキストにし、文科省『小学校指導要領』と生活科の各社教科書を参考にし、鎌倉が実際に小学校教員時代に使用した教具や子どもたちが表現した作品、当時の学級通信・授業プリントを具体的に見せながら授業展開した。	
授業科目名 保育内容 環境		
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
保育内容自然・社会が再構成されて新たに誕生してきたことに込められたねらいと現代保育における重要な視点を踏まえて、施設的物的環境・保育内容活動としての環境・人間関係における環境・保育活動における協力者環境をいかに整えていくのか、保育内容環境に示されている具体的題材に基づいてイメージできるように進めた。	文科省『幼稚園指導要領』と厚労省『保育所保育指針』を主たるテキストとし、さらに柴崎正行・若月浩著『保育内容「環境」』を活用するとともに、具体的な保育場面がイメージできるように鎌倉がかつて勤務していた幼稚園の活動の様子をスライドショーで見せて紹介したりもした。	

授業科目名 入門演習		<p>・今まで大学が築いてきた地域保育園・児童館・師勝北小学校・附属クリエ幼稚園との関係を活かして、参観・遊ぶ会・夏祭りお手伝いの機会を得て「体験して学ぶ」機会をつくることができました。</p> <p>・北名古屋市役所総務部市民活動推進課、同福祉部児童課、北名古屋市商工会青年部とのつながりが出来たことで、大学地域と連携した教育活動への見通しが広がってきた。</p>
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
大学生活における学び方の1つとして「体験しながら学ぶ」「書いてまとめながら学ぶ」ことを習得するとともに、学生同士の関係を築いていくためにも「発表して学び合う」ことを大事に進めた。	提示した課題に即して新聞記事や幼児向けの本を見つけて読み紹介し合ったり、講演会・特別授業・参観・幼児学童と関わる機会などの機会を作って学んだことを書いてまとめたりさせた。	
授業科目名 ゼミナールⅢ		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
「子どもの生活と教育」に視点を当てて地域の方々から話を聞いたり子どもの健全育成のための活動の様子を見学しに行ったりした。また、実習・参観・サークルやボランティア活動の機会に直接子どもたちに触れて感じたことを意見交流して、子ども・子どもを取り巻く環境の見方を深めようとしてきた。さらに、後期は卒業論文の作成を意識して、卒論構成や仕上げていくまでの見通しがつかめる資料で学習もした。	3年生はそれまでに子どもと直接触れ合う機会が多いことから、極力自分で目にしたり関わったりした子どもたちと、その子どもたちを取り巻く環境を何よりの「教材」としてきた。	
授業科目名 保育所実習指導Ⅰ・Ⅱ		<p>・実際に保育所訪問で担当学生に直接指導しながら、応対して下さった園長または指導教官と保育のあり方についての認識を深めてきた。</p> <p>・この他にも同様に、小学校教育実習指導、幼稚園教育実習指導、施設実習指導にも関わった。</p>
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
実際に現場に入って保育士に指導いただく活動も加えながら、実際に乳幼児に関わり保育していくことを十分踏まえて、最低限の知識・技能が身につけているようしっかりと心構えが持てるようにするとともに、事前事後にすべきことが確実に出来るように小まめに個別指導した。	担当教員で作成した本学オリジナルの「実習の手引き」を十分生かしながら、「実習の記録」と同様の書式のプリントを用意して、本番と同じように書き入れさせるなどした。	

3. 学会等および社会における主な活動

【委員・役職】		
北名古屋市子ども・若者支援地域協議会委員（代表者兼実務者）	平成27年度	困難を抱える子ども・若者を支援するために関係機関等で構成される会議に参加し、事例を踏まえて助言した。
日本生活教育連盟第67回夏季全国研究会乳幼児の教育分科会代表世話人	2015. 8. 8～10	幼稚園・小学校教諭、保育士、保育士・教員養成系大学教員、幼子を抱える親、学童保育室指導員が参加してともに考える機会の運営責任者として参加・報告者を組織し、司会ならびに1つ1つの実践に対する評価・助言を担当した。

教育のつどい2015生活指導と自治活動 分科会共同研究者	2015. 8. 16～18	各県で行われた教育研究会において推薦されたメンバーが集って、各地の学校現場や小中高校生の実態を見つめながら取り組んだ生活指導・学級活動・授業外の文化活動や自治活動の実践を交流する機会に、その1つ1つの取り組みを分析し評価・助言した。
第65次東京教育研究会国語教育分科会共同研究者	2015. 11. 22・23	都内各支部からの推薦ないしは自主的に提出された国語教育ないしは子どもの綴り方教育の実践をもとに交流する機会に、その1つ1つの取り組みを分析し評価・助言した。
【講演・特別講義・模擬授業】		
日本福祉大学特別授業	2015. 11. 27	「苦悩する社会だからこそ広げたい仲間の輪」と題して90分1コマで話した。小学校低学年と高学年の担任時代に子どもも教師である私も苦悩した事例を紹介しながら、「なぜ教師も苦悩しなくてはならなかったのか」「指導を教師に合わせるのか子どもに合わせるのか」「教師としての私を鍛えてくれた仲間とは」について語った。
教育保育実践史研究会	2015. 12. 12	小学校教員時代、東京都の水脈「多摩川」を大事な学習フィールドとし、社会科の「水」「ゴミ」などと絡ませて、生き物捕り、上流での林間活動、下流での干潟活動などの実体験も通して、自然と生活環境のあり方を見つめさせた総合学習の実践を紹介。そのことを通して、地域環境を肌で感じて考える学習の大切さを語った。
第8回若い先生の実践に学ぶ会	2015. 11. 21	小学校教員時代、発達に偏りのある子が3人らを中心に授業が成立しなかった小1当時子どもたちを2年生で担任する。「当たり前」が通用しない中で、「この子どもたちに合った」取り組みを進めていった。その1つが「声に出して読んで楽しい読み物」を毎日紹介したっぶり読むことだった。わが子の読みの上達と毎日紹介される読み物に親も虜になって、子も親もまとなり、「当たり前」に学習し生活する子達に成長していった様子を語った。同題材で3か所で講演した。
日本生活教育連盟京都・滋賀サークル冬の研究集会	2016. 1. 9	
日本生活教育連盟愛知サークル月例研究会	2016. 3. 13	

進路指導ガイダンス① (岐阜県立土岐紅陵高校)	2015. 7. 9	高校からの要請に応じて、教育・保育に関わる仕事に就いてみたいと考えている生徒に45分単位の授業をした。教員・保育士はどのようなやりがいを持って、見える仕事だけではない仕事をしているのか、どのようにしたら教員・保育士になれるか、そのために今をどう過ごせばよいのかを主な内容として、映像も交えて話した。
進路指導ガイダンス② (岐阜県立大垣桜高校)	2015. 11. 18	
進路指導ガイダンス③(私立豊川高校)	2015. 11. 24	
進路指導ガイダンス④ (三重県立桑名西高校)	2015. 11. 25	
進路指導ガイダンス⑤ (私立ニュートン高等専修学校)	2016. 2. 19	
進路指導ガイダンス⑥ (私立東海南高校)	2016. 3. 3	